

「E球技 ア ゴール型 バスケットボール」

本単元で育成する資質・能力

つながる知識、思考力・判断力・表現力、主体性・積極性、深く考えようとする姿勢共感力優しさ・思いやり・助け合いの心

単元について

○単元観鷹取

小学校学習指導要領では、第1, 2学年「E ゲーム ア ボールゲーム」において、簡単な操作の「ボール遊び」と簡単な規則で行われる「ゲーム」で、攻めと守りが入り交じりながらゴールにボールを投げ入れたり蹴り入れたりするゲーム（ゴール型ゲームに発展）を行う。ここではゲームを楽しく行う過程で、求められる動きの習得を目指している。また、第3, 4学年「E ゲーム ア ゴール型ゲーム」において、簡単なボール操作で行える、身体接触の少ない易しいゲームを行う。ここでは、ハンドボールやポートボールなどを基にした優しいゲームを行う中で基本的なボール操作やボールを持たないときの動きによるゲームの展開を目指している。さらに、第5, 6学年「E ゲーム ア ゴール型」において、ルールや様式を修正し、学習課題を追求しやすいよう工夫した、「簡易化されたゲーム」を行う。ここではバスケットボールを取り上げ、投げる、受ける、運ぶといったボール操作をしたり、ボール保持者からボールを受けることができる場所に動いたりして、攻守入り交じったゲームができるようにする。

中学校では、これらの学習を受けて「E球技」において基本的な技能や、作戦に応じた技能で仲間と連携し、ゲームが展開できるようにすることが求められている。そこで、中学校第2学年では勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、基本的なボール操作と仲間と連携した動きで攻防を展開できるようにする。また、学習に積極的に取り組み、フェアにプレイすること、分担した役割を果たすことや話し合いに参加することなどに意欲を持ち、自己の健康や安全に気を配ることができるようにする。さらに、運動の行い方などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫することができるようにする。

本単元「バスケットボール」はゴール型に該当し、ドリブルやパスなどのボール操作と相手コートに侵入し、シュートを放ち、一定時間内に相手チームより多くの得点を競い合うゲームである。本学年では攻撃を重視し、仲間と連携して空間に走り込み、マークをかわしゴール前での攻防を展開できるようにする。

表1：指導内容の体系化整理表：文部科学省（平成22年）

発達段階	領域	技能		
		技能	ボール操作	ボールを持たないときの動き
各種運動の基礎を培う時期	小学校1・2年 （ボールゲーム） ゲーム	ボールゲームでは、簡単なボール操作やボールを持たないときの動きによって的に当てるゲームや攻めと守りのあるゲームをすること。	<ul style="list-style-type: none"> 狙ったところに緩やかにボールを投げたり転がしたり、蹴ったりすること。 ボールを捕ったり、止めたりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ボールを操作できる位置に動くこと。 ボールが飛んだり、転がったりしてくるコースに入ること。
	小学校3・4年 （ゴール型ゲーム） ゲーム	ゴール型ゲームでは、基本的なボール操作やボールを持たないときの動きで、易しいゲームをすること。	<ul style="list-style-type: none"> ボールを持ったときにゴールに体を向けること。 味方にボールを手渡したり、パスを出したりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> 向かってくるボールの正面に移動すること。 ボール保持者と自分の間に守備者がいないように移動すること。

多くの領域の学習を経験する時期	小学校5・6年	ゴール型 ボール運動	ゴール型では、簡易化されたゲームで、ボール操作やボールを受けるための動きによって、攻防をすること。	<ul style="list-style-type: none"> ・近くにいるフリーの味方にパスを出すこと。 ・相手にとられない位置でドリブルすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールを保持する人とゴールの間に体を入れてシュートを防ぐこと。 ・得点しやすい場所に移動し、パスを受けてシュートをすること。 ・ボールを保持する人と自分の間に守備者を入れないように立つこと。
	中学校1・2年	球技(ゴール型)	ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きでゴール前での攻防を展開すること。	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすること。 ・マークされていない味方にパスを出すこと。 ・得点しやすい空間にいる味方にパスを出すこと。 ・パスやドリブルなどでボールをキープすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴールとボールが同時に見える場所に立つこと。 ・パスを受けるために、ゴール前の空いている場所に動くこと。 ・ボールを持っている相手をマークすること。
卒業後に少なくとも一つの運動やスポーツを継続することができるようにする時期	中学校3年		ゴール型では、安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きでゴール前への進入などから攻防を展開すること。	<ul style="list-style-type: none"> ・守備者が守りにくいタイミングでシュートを打つこと。 ・ゴールの枠内にシュートをコントロールすること。 ・味方が操作しやすいパスを送ること。 ・守備者とボールの間に自分の体を入れてボールをキープすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴール前に広い空間を作り出すために、守備者を引きつけてゴールから離れること。 ・パスを出した後に次のパスを受ける動きをすること。 ・ボール保持者が進行できる空間を作り出すために、進行方向から離れること。 ・ゴールとボール保持者を結んだ直線上で守ること。 ・ゴール前の空いている場所をカバーすること。
	入学年次		ゴール型では、状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などから攻防を展開すること	<ul style="list-style-type: none"> ・守備者のタイミングをはずし、守備者のいないところをねらってシュートを打つこと。 ・守備者の少ないゴールエリアに向かってトライすること。 ・味方が作り出した空間にパスを送ること。 ・ゴールに向かってボールをコントロールして運ぶこと。 ・守備者とボールの間に自分の体を入れて、味方と相手の動きを見ながらボールをキープすること。 ・シュートを打たれない空間にボールをクリアすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自陣から相手陣地の侵入しやすい場所に移動すること。 ・シュートやトライをしたり、パスを受けたりするために味方が作り出した空間に移動すること。 ・モールやラックから、味方と連携してボールをつなぐための動きをすること。 ・ボール保持者がプレイしやすい空間を作り出すために、必要な場所に留まったり、移動したりすること。 ・スクリーンプレイやポストプレイなどの味方が侵入する空間を作り出す動きをすること。 ・得点を取るためのフォーメーションやセットプレイなどのチームの役割に応じた動きをすること。 ・チームの作戦に応じた守備位置に移動し、相手のボールを奪うための動きをすること。 ・味方が抜かれた際に、攻撃者を止めるためのカバーの動きをすること。 ・一定のエリアからシュートを打ちにくい空間に相手や相手のボールを追い出す守備の動きをすること。

○生徒観

表2：バスケットボールについての自己評価

好きである			まあ好きである			あまり好きではない			嫌い		
全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子
34.2%	41.5%	25.0%	50.7%	39.0%	65.6%	9.6%	12.2%	6.3%	2.7%	2.4%	3.1%
得意である			まあ得意である			あまり得意ではない			苦手である		
全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子
11.0%	12.2%	9.4%	50.7%	46.3%	56.3%	27.4%	26.8%	28.1%	5.5%	4.9%	6.3%

表3：ゴール型において求められる動きの様相およびルールについての自己評価

様相など	できている			まあできている			あまりできていない			できていない		
	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子
オンザボール	9.6%	9.8%	9.8%	63.0%	58.5%	68.8%	17.8%	17.1%	18.8%	4.1%	4.9%	3.1%
オフザボール	27.4%	26.8%	28.1%	57.5%	53.7%	62.5%	6.8%	7.3%	6.3%	2.7%	2.4%	3.1%
ルールの理解	15.1%	14.6%	15.6%	49.3%	41.5%	59.4%	26.0%	29.3%	21.9%	4.1%	4.9%	3.1%

表2にバスケットボールに関する自己評価を示した。上段のバスケットボールに関する自己評価では、「好きである」「まあ好きである」と回答した生徒は8割を超えているものの、男女差があり、特に男子ではバラツキがあり、否定的評価をしている生徒も少なくない。また、技能の習得状況については「あまり得意ではない」「苦手である」と回答した生徒が3割以上おり、バスケットボールに関する自己評価とは必ずしも一致していないことがわかる。

表3にはゴール型において求められる動きの様相およびルールについての自己評価について示している。ボールを持っている時の動き（オンザボール）とは、ドリブルやパス、シュートなどボールを持っている時のボール操作を指す。ボールを持っていない時の動き（オフザボール）とは、パスを受けるために空間に走り込む動きやボールを持っている相手をマークするなどの動きを指す。（詳細は表1に示している。）全体では肯定的回答が多いものの、「できている」という自信を持った回答には至っていない生徒が多くを占めている。特にオフザボールと比較し、オンザボールに対して自信を持っていない生徒が男女とも存在している。ルールについての理解も、否定的回答が3割以上存在している。

○指導観

以上の生徒観を踏まえ次のことに配慮し、指導を行う。

男女ともバスケットボールが「好き」であるが「技能には自信がない」という生徒が存在している。このことから、比較的難易度の低い学習課題から確実に技能が習得できるよう、授業冒頭で十分な基礎練習の時間を設定し、毎時間、バスケットボールを行う上で必要な技能の習得を目指す。その際、ボール操作（オンザボール）に課題や苦手意識を持っている生徒が存在していることから、パスではゲームにつながる動きのある状況で、相手にカットされないことをねらいとしたパス練習、ドリブルでは対人でボール保持をねらいとした練習に特化する。

技能の習得を目指す練習の際には、ルールについても触れることで技能の習得と並行した形でルールの理解を目指す。ここでは、あまり多くのルールを教え込むのではなく、技能の習得状況をみとり、段階的にルール（制約）を追加する。

これらの「技能習得」をねらいとして単元を構成することによって、安定したボール操作で周囲の状況を判断し、得点を競い合う楽しさや喜びを自己の技能向上とともに実感できるようにする。

単元の目標

- (1) バスケットボールについて、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防を展開すること。【運動の技能】
- (2) バスケットボールに積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること分担した役割を果たそうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとするなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。【運動への態度】
- (3) バスケットボールの特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。【運動についての知識、思考・判断】

単元の評価規準

ア 運動への関心・意欲・態度	イ 運動についての思考・判断	ウ 運動の技能	エ 運動についての知識・理解
①バスケットボールの学習に積極的に取り組もうとしている。 ②学習のルールを守るなど、健康・安全に留意している。 ③バスケットボールの楽しさや喜びを味わうことができるよう、フェアなプレイを守ろうとしている。 ④作戦などについての話し合いに参加しようとしている。	⑤ボール操作やボールを持たない時の動きなど、技術を身に付けるための運動の行い方のポイントを見付けている。 ⑥自己やチームの課題を見付けている。 ⑦学習した安全上の留意点を他の練習場面や試合場面に活用している。	⑧ゴールの攻防を展開するためのボール操作と、空間に走り込むなどの動きができる。	⑨バスケットボールに関連して高まる体力について、学習した具体例を挙げている。 ⑩試合の行い方について、学習した具体例を挙げている。

資質・能力と評価の観点とのかかわり

本校の育てようとする資質・能力			評価の観点			
			関	考	技	知
知識	つながる知識	知	①「既習事項とのつながり」のある知識 ②「他教科・領域とのつながり」のある知識 ③「地域・社会とのつながり」を意識した知識 ④これらが整理され、「将来へ活用できる」ことを実感できる知識			
スキル	思考力・判断力・表現力	表	①比較し、関連づけて物事を考える力 ②目的に応じて根拠をもとに判断できる力 ③思考・判断に至った過程を振り返り、整合性等を検討する力 ④自分の考えを相手に納得できるように、わかりやすく伝える力			
意欲態度	主体性・積極性	主	①自ら課題を見つけ、よりよく解決しようとする ②自ら進んで、前向きに取り組もうとする			
価値観倫理観	深く考えようとする姿勢	深	「佇む」(たたずむ)こと、「はっと気づく」こと ①広い視野と細かな配慮を持って物事を捉えようとする ②課題解決過程を振り返り、整合性や限界性を検討しようとする ③表面に見えていないものを感じ取り、深く思考しようとする ④創造的な思考を働かせ、新たな価値を発見・創造しようとする			
	共感力 優しさ・思いやり・助け合いの心	優	①他者意見を真摯に聴き、受け止め、相手目線で考えようとする ②自己肯定感を持った上で、他者との違いを肯定的に捉えようとする ③関わり合いを通して、優しさ、思いやり、感謝の心を持って行動しようとする ④仲間と協働し、ともに高まろうとする			

単元として育てたい資質・能力のつながり

- 1 これまで学習したネット型、ベースボール型における「ボールを持たない人」の動き方の共通点や重要性について想起し、取り組むことができる。(つながる知識)
- 2 これまで学習した安全への配慮事項(球技)について本単元に当てはめようとする。(つながる知識)
- 3 ボールを持たないときに、周囲の状況を把握し、空間に走り込むことや、ボールを持っている相手をマークするなど、得点につながる動きや失点を防ぐ動き方について考えている。(思考力・判断力・表現力)
- 4 ボールを持たないときに、周囲の状況を把握し、空間に走り込むことや、ボールを持っている相手をマークするなど、得点につながる動きや失点を防ぐ動き方ができる。(思考力・判断力・表現力)
- 5 自己やチームの課題を練習や試合から具体的に見つけだし、解決しようとする。(主体性・積極性)
- 6 うまく(理想通りに)できない自分に直面しても、前向きに練習や試合に取り組むことができる。(主体性・積極性)
- 7 チームの課題解決に向けて、自らの考えを述べるなど、積極的に話し合いに参加しようとしている。(主体性・積極性)
- 8 仲間にアドバイスをするなど、仲間と協働し、ともに高まろうとする。(共感力・優しさ・思いやり・助け合いの心)

単元の終末におけるパフォーマンス評価

パフォーマンス課題	評価基準	
バスケットボールの試合を行います。ゲームが全て終わり、自チームの試合を振り返ったときに、全員が互いに活躍を認め合える試合を行ってください。 ≪活躍の基準≫ ON-1 マークされていない人にパスができる。 ON-2 ゴール前の空間にいる味方にパスができる。 OFF-1 パスを受けるために、ゴール前の空いている場所に動くことができる。 OFF-2 ボールを持っている相手をマークすることができる。	S	クラス内で最も勝数が多く、活躍の基準(ON, OFF)のすべてを満たす試合を行うことができるチーム。
	A	活躍の基準(ON, OFF)のすべてを満たす試合を行うことができるチーム。
	B	勝数はないが、活躍の基準(ON, OFF)のすべてを満たす試合を行うことができるチーム。
	C	活躍の基準(ON, OFF)のすべてを満たす試合を行った個人がいるチーム。

指導と評価の計画

時	学習過程	学習内容	評 価				評価規準(評価方法)	◇資質・能力育成場面 【資質・能力】 ◆資質・能力評価場面 【資質・能力】 (評価方法)
			関	考	技	知		
1	課題設定	オリエンテーション ・安全な実施のための留意点 ・ボールに慣れる	○				バスケットボールの学習に積極的に取り組もうとしている。(関心・意欲・態度)	◇これまで学習した安全への配慮事項(球技)について本単元に当てはめようとする。 [知-①]
2	情報収集	基本的なボール操作の習得① ・四角パス ・ドリブル	○			○	学習のルールを守るなど、健康・安全に留意している。(関心・意欲・態度) バスケットボールに関連して高まる体力について、学習した具体例を挙げている。(知識)	◇うまく(理想通りに)できない自分に直面しても、前向きに練習や試合に取り組むことができる。[主-②] ◆これまで学習したネット型、ベースボール型における「ボールを持たない人」の動き方の共通点や重要性について想起し、取り組もうとする。 [知-①]
3	情報収集	基本的なボール操作の習得② ・四角パス ・ドリブルシュート ・対人練習				○	ボール操作やボールを持たない時の動きなど、技術を身に付けるための運動の行い方のポイントを見付けている。(思考・判断)	

4	整理・分析	ゲームに向けた練習① ・ボールを持たないときの動き (3 on 3) 本時		○		ボール操作やボールを持たない時の動きなど、技術を身に付けるための運動の行い方のポイントを見付けている。(思考・判断)	◆ボールを持たないときに、周囲の状況を把握し、空間に走り込むことや、ボールを持っている相手をマークするなど、得点につながる動きや失点を防ぐ動き方ができる。[表-②]
5	整理・分析	ゲームに向けた練習② ・ボールを持たないときの動き (ミニゲーム)		○	○	学習した安全上の留意点を他の練習場面や試合場面に活用している。(思考・判断) ゴールの攻防を展開するためのボール操作と、空間に走り込むなどの動きができる。(技能)	◇これまで学習した安全への配慮事項(球技)について本単元に当てはめようとする。 [知-①]
6	まとめ	ゲームに向けた練習③ ・ルールや制限を意識した練習 (ミニゲーム)		○	○	自己やチームの課題を見付けている。(思考・判断) 試合の行い方について、学習した具体例を挙げている。(知識・理解)	◆自己やチームの課題を練習や試合から具体的に見つけだし、解決しようとする。[主-①] ◇チームの課題解決に向けて、自らの考えを述べるなど、積極的に話し合いに参加しようとしている。[優-④]
7	実行	ゲーム①	○			作戦などについての話し合いに参加しようとしている。(関心・意欲・態度)	◇仲間にアドバイスをするなど、仲間と協働し、ともに高まろうとする。[優-④]
8	振り返り	ゲーム②	○		○	バスケットボールの楽しさや喜びを味わうことができるよう、フェアなプレイを守ろうとしている。(関心・意欲・態度) ゴールの攻防を展開するためのボール操作と、空間に走り込むなどの動きができる。(技能)	◆ボールを持たないときに、周囲の状況を把握し、空間に走り込むことや、ボールを持っている相手をマークするなど、得点につながる動きや失点を防ぐ動き方ができる。[表-②]

本時の学習

(1) 本時の目標

ボール操作やボールを持たない時の動きなど、技術を身に付けるための運動の行い方のポイントを見付けている。(運動についての思考・判断)

(2) 準備物

バスケットボール、スポットマーカー、ポストイット、水性顔料マーカープロッキー、ゼッケン

整理・分析

(3) 学習展開 (4限目/8)

	学 習 活 動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法) 【資質・能力の評価】
導 入	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ ・補強運動 ・基礎練習 ドリブルシュート 四角パス 	<ul style="list-style-type: none"> ○係の生徒を中心に行わせる。 ○手首・足首などの関節を入念に行わせる。 ○既習事項を確認し行わせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・膝のバネを利用する。 ・人のいない進行方向へボールを出す。 	
展 開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【課題1】サブゲーム (3on3) 目標：たくさんのシュートをする。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・サブゲーム (3on3) ○プレイヤーは多くのシュートを目指してゲームを行う。 ○見学者(記録者)はシュート数を記録する。 ・3人グループでゲームについて振り返る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p style="text-align: center;">発問：シュートの回数に対して得点が少ないのはなぜ？</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・3人グループで理由を考え、全体に交流させる。 <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> ゴールから離れてシュートしているから <input type="checkbox"/> マークされて正確に狙えていなかったから <input type="checkbox"/> パスが回らなかったから 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームの説明を行う。 ○時間 (2分ゲーム×3セット) ○グループの全員が順番にプレイ, 見学ができるようにする。 ○得点はボードに当たったものを全て1点とする。 ・シュート数と得点を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・3人で考えた理由を問い、必要に応じて全体に対して質問を重ねる。生徒の発言は板書する。シュートの技能以外の理由を考えさせる。 ・ゴール型の特性を説明する。《キーワード：連携》 	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【ねらい】『ゴール型』に求められるボールを持たないときの動き方を見付けよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・作戦タイム (3人グループ) ○得点につながる有効な動きをカードに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいを確認させ、得点につながる有効な動きについて考えさせる。 	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【課題2】サブゲーム (3on3) 目標：シュートの確率を上げる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・サブゲーム (3on3) ・ゲームを振り返る。(3人グループ) ○得点につながる有効な動きをカードに記入する。 <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> ゴールの近くまで行ってパスをもらった。 <input type="checkbox"/> マークを外すために空いた場所へ移動したり、空いた場所にいる仲間にパスをした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題1と同様のゲームを行う。 ・グループで有効な動き挙げ、カードに記入させる。 ・見学時は「OFFの人」に着目させ、記入をさせる。 ・必要に応じてバイオリーションの説明を行う。 	<p>ボール操作やボールを持たない時の動きなど、技術を身に付けるための運動の行い方のポイントを見付けている。(思考・判断) 行動観察 【表-②】</p>
次 時 へ の つ な ぎ	<ul style="list-style-type: none"> ・必要となる動き方をまとめる。 ○グループごとに発表する。 ・次時の予告 ・あいさつ 	<ul style="list-style-type: none"> ・有効な動きや、自分はどうかであったか(課題)をグループごとに発表させ、発言を板書する。 ・次回は今回挙げた必要となる動き方ができ 	

		ることをねらいとさせる。	
--	--	--------------	--